

世界史研究推進委員会

共同研究「高大連携の試み」および「世界史への興味・関心を育む 教材・指導法の研究」経過報告

寒川高校 根岸洋史

世界史研究推進委員会は、今年度もおおむね二月に一回のペースで、横浜市立みなと総合高校、藤沢総合高校などを会場に委員会を開催しました。会場を御提供いただいた関係各位の皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

なお今年度の研究大会での発表は、次の通りです。

歴史分科会春季研究発表会（24年3月5日 かながわ県民センター）

「19世紀のアジア史をどう教えるか」

問題提起 石橋 功（藤沢総合高校） 澤野 理（川崎工科高校）

研究発表 神田 基成（鎌倉学園高校）「19世紀の南アジア」

柴 康登（桐蔭学園高校）「19世紀の西アジア」

本発表は、今年4月27日～29日の日程で、韓国ソウルの梨花女子大学にて開催されたAAWH（アジア世界史学会）でも発表されました。

月例の委員会では、NPO 小林克則先生、手塚尚先生、手塚幸子先生にもご出席いただきました。小林先生から専修大学での講義と学生の歴史的教養の現状等の報告があり、今の高校の歴史教育に問われているものは何か？を考える機会を提供していただいております。

恒例の夏季「高大連携の試み」ですが、今年度も栄光学園高校の協力の下、「ウェスタンインパクトをどう教えるか」をテーマに、委員会所属の教員による授業の他、大阪大学の桃木至朗先生、秋田茂先生、東京大学の杉山清彦先生にも大学受験用の授業を行っていただきました。今年度の参加生徒は、会場校の栄光学園をはじめ、湘南、横須賀、横浜市立みなと総合、横須賀大津、湘南白百合学園、日本大学藤沢など多くの学校から集まりました。午後の研究討議では、県内はじめ他都府県の公立・私立の教員、さらに大阪大学・東京大学・日本学術振興会の先生の御参加をいただき、非常に有意義な研究討議と研修を行うことが出来ました。なお、来年度（2013年）には全国歴史教育研究協議会（全歴研）神奈川大会が開催されます。そこではこれまでのような分科会の人的振り分けを変え、この高大連携事業の内容を拡大した形にしたいと考えておりますので、今年度もさらに発展・充実させていく所存であります。

昨年度からの月例講読会ですが、『大人のための近現代史——一九世紀編』を終え、新たに『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』（名古屋大学出版会）を読んでおります。「歴史」と銘うっていますが、基本的に経済学のテキストですので、もし倫社・政経の先生方で興味・関心をお持ちの方がおりましたら、是非参加・ご教示ください。

諸先生方におかせられましては、校務ご多忙の折とは拝察いたしますが、今年も社会科部会並びに各委員会への参加をよろしくお願いいたします。